

# 平成 24 年度 三重大学修学達成度評価

－三重大学生の 4 つの力に関するアンケート調査－

## 報告書 (概要版)

高等教育創造開発センター  
教育評価部門



## 調査結果 — 4つの力について —

調査1（学部1年生対象・春実施）、調査2（全学部生対象・秋実施）における、「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」「生きる力」に対する回答をまとめた。



### 1.1 全学生の4つの力

#### 1.1.1 全学生の「感じる力」

##### (1) 8つの「感じる力」について

本調査では、大学の学習への動機づけを感じる力を24項目で設定し、8つの概念に分類している。8つの概念は、以下の通りである。

効力予期	学習をやり遂げることができると感じる事
利用価値	学習が自分の将来に役立つという価値づけ
社会的利用価値	学習が他者や社会に役立つという価値づけ
興味価値	取り組む課題が面白いと感じる価値づけ
私的獲得価値	学習することによって、なりたい自分に近づけるという価値づけ
感情的要因	学習に対して感じる感情
社会的環境	学習をサポートしてくれる他者の存在
動機づけ総合指標	大学での学習に積極的に取り組む姿勢（調査2のみ）

各項目に対して、「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めた。感じる力の8つの得点について、在籍年数別に平均値を算出した。平均値が高いほど、学習への動機づけを感じていることを表す。また、「動機づけ総合指標」に関する項目は、大学の学習に積極的に取り組んだ程度をたずねる設問であるため、入学直後に実施した調査1の質問項目には含めなかった。

その結果、「利用価値」、「社会的利用価値」、「興味価値」、「私的獲得価値」などの価値に関する得点において、入学直後（1年目春）の平均値が高かった。これは、学習に対する価値づけが高い状態で入学を迎えたということである。しかし、1年目の秋になると、その平均値が大きく低下している。さらに、2年目以降の学生も平均値が低い傾向にある。これらの学習の価値づけに関する平均値は、他の得点に比べて全体的に平均値が高いが、学年間で平均値を比較すると1年目秋以降の学年の平均値が低くなっており、1年目春の動機づけの高さを維持することが難しいことを示している。また、「効力予期」は、他の学年に比べると4年目の学生の平均値が最も高かった。4年目の学生は、大学での学習をやり遂げることができると感じているようである。

表1.1.1.1 8つの感じる力の平均値(全学生)

	効力予期	利用価値	社会的利用価値	興味価値	私的獲得価値	感情的要因	社会的環境	動機づけ総合指標
1年目春	3.21	4.24	3.88	3.62	4.25	2.93	3.61	—
1年目秋	3.20	3.89	3.64	3.40	3.92	2.88	3.52	3.43
2年目	3.20	3.76	3.59	3.31	3.81	2.75	3.48	3.41
3年目	3.21	3.68	3.50	3.31	3.77	2.74	3.49	3.45
4年目	3.30	3.68	3.56	3.40	3.76	2.75	3.55	3.50
全学年	3.22	3.76	3.58	3.36	3.82	2.79	3.51	3.44

※得点の幅は1～5点。中点は3点。

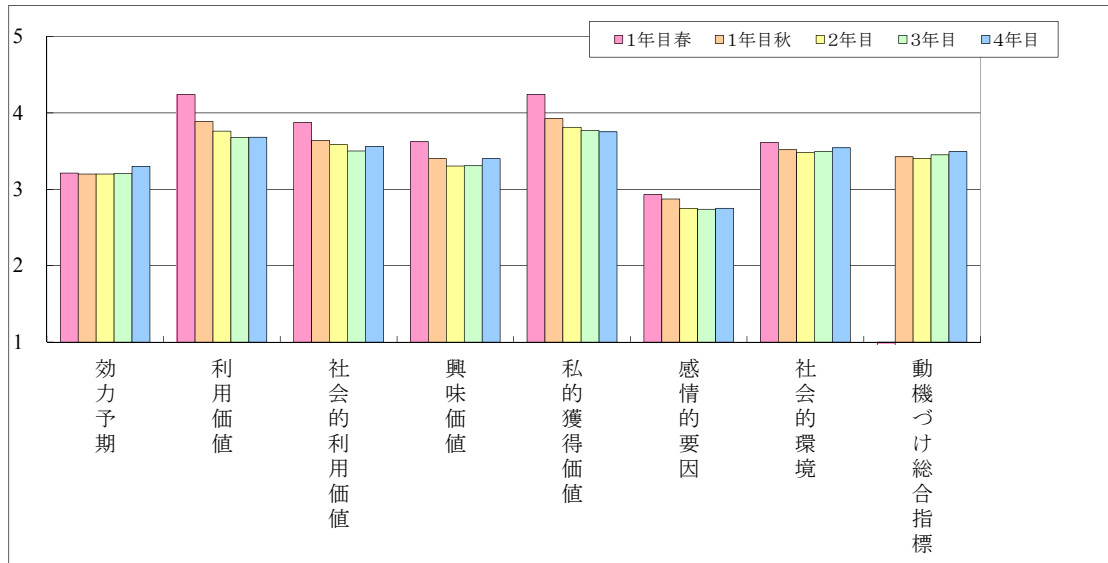


図1.1.1.1 8つの感じる力の平均値(全学生)

(2) 「心身の健康」に対する意識について

教育目標「感じる力」の一側面には、「心身の健康に対する意識」が挙げられている。これについて、在籍年数別に平均値を算出した。「1：心がけていない」から「5：心がけている」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容を意識して生活していることを表している。

その結果、「規則正しい生活を心がけている」について、1年目の学生の平均値が3.5点以上（中点は3点）と高かった。入学直後の学生が最も規則正しい生活を心がけているようである。また、その他の学年の平均値も3.5点付近であり、規則正しい生活を心がけているようである。

表1.1.1.2 規則正しい生活についての平均値(全学生)

	規則正しい生活を心がける
1年目春	3.67
1年目秋	3.58
2年目	3.47
3年目	3.47
4年目	3.48
全学年	3.50

※得点の幅は1～5点。中点は3点。

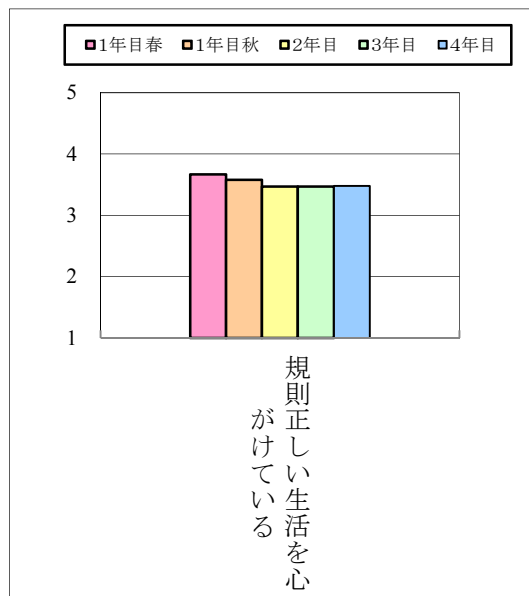


図1.1.1.2 規則正しい生活についての平均値(全学生)

(3) 「感じる力」の習得について

感じる力の習得に関する2項目について、在籍年数別に平均値を算出した。2項目とも「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

その結果、「感じる力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」と「感じる力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」について、1年目春の学生の平均値が最も高く、2年目以降の学生の平均値が低かった。

感じる力は他の3つの力（考える力・コミュニケーション力・生きる力）と比べると、両項目とも全体的に平均値が低かった。感じる力については、苦勞しても身につけたいという意識や大学教育に対する期待はあまり高くないようである。

表1.1.1.3 感じる力の習得についての平均値(全学生)

	も「 身感 にじ つる け力 た」 か いを と苦 思勞 いし まて すで	教「 待育 をじ 通る し力 て」 ま 身は に三 つ重 く大 か学 期の
1年目春	4.03	3.79
1年目秋	3.75	3.48
2年目	3.63	3.32
3年目	3.62	3.30
4年目	3.67	3.31
全学年	3.67	3.36

※得点の幅は1～5点。中点は3点。

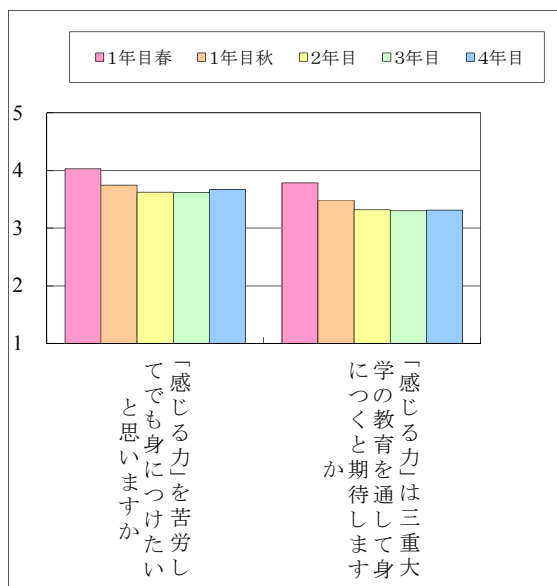


図1.1.1.3 感じる力の習得についての平均値(全学生)

## 1.1.2 全学生の「考える力」

### (1) 8つの「考える力」について

本調査では、考える力について、志向性 12 項目と経験 12 項目を設定した。志向性、経験ともそれぞれ 4 つの概念に分類した。8 つの概念は、以下の通りである。

志向性	要点理解	問題の要点を素早くつかんで理解する人になりたい
	論理・証拠の重視	論理や証拠を重視し、それに基づいて考える人になりたい
	脱軽信	情報を鵜呑みにせず、いったん本当に正しいのかを疑ってみるという人になりたい
	決断力	物事に対して、いつまでも思い悩んだりせず、適切に決断する人になりたい
経験	要点理解	最近、問題の要点を素早くつかんで理解するという経験をした
	論理・証拠の重視	最近、論理や証拠を重視し、それに基づいて考えるという経験をした
	脱軽信	最近、情報を鵜呑みにせず、いったん本当に正しいのかを疑ってみる経験をした
	決断力	最近、物事に対して、いつまでも思い悩まず、適切に決断するという経験をした

志向性は、「1：全くなりたくない」から「7：非常になりたい」の7段階で回答を求めた。経験は、「1：全くしていない」から「7：いつもしている」の7段階で回答を求めた。これらの考える力の8つの得点について、在籍年数別に平均値を算出した。平均値が高いほど、志向性はそのような人になりたいと思っており、経験は考える力を使うような経験していると感じていることを表す。なお、経験に関する項目は、大学での経験についてたずねる設問であるため、入学直後に実施した調査1の質問項目には含めなかった。

その結果、志向性の「要点理解」と「決断力」について、全体的に平均値が高かった。学生全体が問題の要点を素早くつかんで理解したり、物事に対していつまでも思い悩んだりせず、適切に決断する人になりたいと考えているようである。しかし、どちらの得点も学年が上がるほど平均値が低下し、4年目の学生の平均値が最も低かった。

経験の「論理・証拠の重視」や「決断力」について、4年目の学生は他の学年と比べると平均値が高かった。4年目の学生は、論理や証拠を重視し、それに基づいて考える経験や物事にいつまでも思い悩まず、適切に決断するという経験をしていると感じているようである。

また、「要点理解」や「決断力」について志向性と経験の平均値を比べると、志向性の平均値と経験の平均値に大きな差が見られた。「要点理解」や「決断力」という考える力を持った人になりたいと思っているが、そのような経験しているという実感があまり持っていないことが示された。

表1.1.2.1 8つの考える力の平均値(全学生)

	志向性				経験			
	要点理解	の論理重視	脱軽信	決断力	要点理解	の論理重視	脱軽信	決断力
1年目春	6.35	4.86	5.08	5.94	—	—	—	—
1年目秋	6.11	4.92	5.10	5.72	4.89	4.56	4.66	4.62
2年目	5.90	4.93	5.02	5.58	4.82	4.57	4.63	4.57
3年目	5.89	4.96	5.07	5.55	4.84	4.63	4.69	4.57
4年目	5.76	5.00	4.97	5.46	4.93	4.75	4.74	4.71
全学年	5.93	4.95	5.05	5.59	4.87	4.61	4.67	4.61

※得点の幅は1～7点。中点は4点。

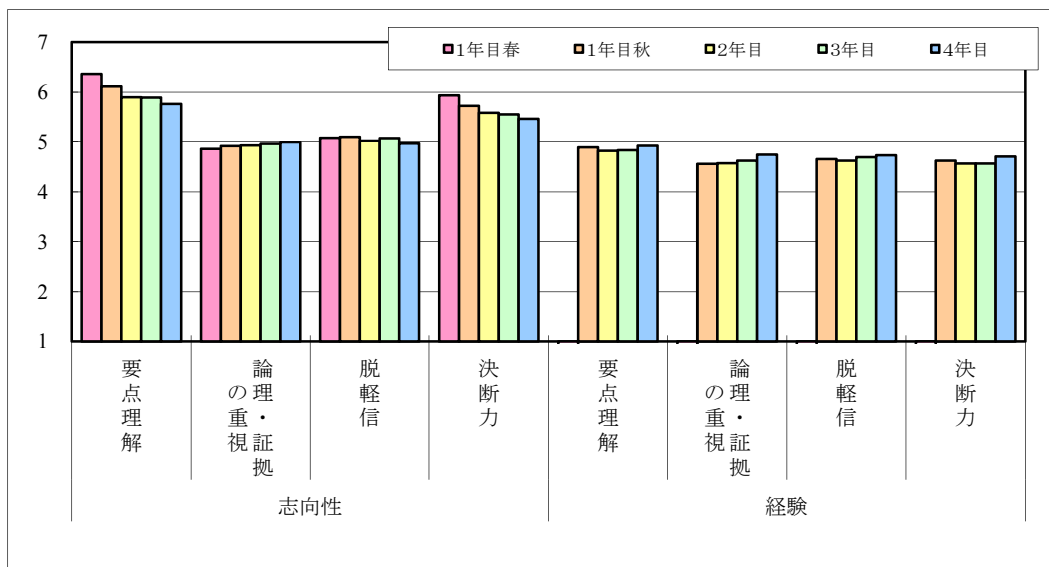


図1.1.2.1 8つの考える力の平均値(全学生)

(2) 「考える力」の習得について

考える力の習得に関する2項目について、在籍年数別に平均値を算出した。2項目とも「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

その結果、「考える力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」と「考える力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」について、1年目春に最も平均値が高く、高学年ほど平均値が低かった。

考える力は、他の3つの力（感じる力・コミュニケーション力・生きる力）と比べると、苦勞してでも身につけたいという意識と大学教育に対する期待ともに平均値が高かった。

表1.1.2.2 考える力の習得についての平均値(全学生)

	「考える力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」	「考える力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」
1年目春	4.20	3.91
1年目秋	4.00	3.70
2年目	3.86	3.57
3年目	3.88	3.58
4年目	3.85	3.53
全学年	3.90	3.60

※得点の幅は1～5点。中点は3点。

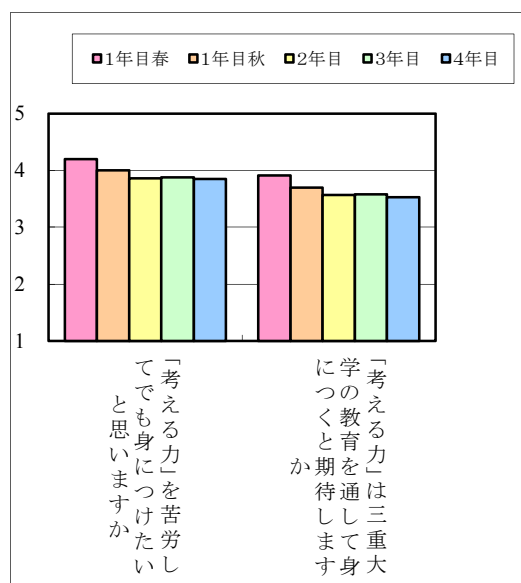


図1.1.2.2 考える力の習得についての平均値(全学生)



### 1.1.3 全学生の「コミュニケーション力」

#### (1)10種の「コミュニケーション力」について

本調査では、コミュニケーション力について、志向性9項目と経験9項目、自信4項目を設定し、志向性、経験ともそれぞれ3つの概念に分類した。10種の概念は、以下の通りである。

志向性	多様性理解	人によっていろんな意見を持っているという多様性を理解する人になりたい
	他の理解	他者の考えや意見について理解する人になりたい
	真正性	他者の考えに対して、正しいところと間違っているところを指摘できる人になりたい
経験	多様性理解	最近、人によっていろんな意見を持っているという多様性を理解するという経験をした
	他の理解	最近、他者の考えや意見について理解するという経験をした
	真正性	最近、他者の考えに対して、正しいところと間違っているところを指摘するという経験をした
自信	英語コミュニケーション	英語でのコミュニケーションに自信がある
	ディスカッション	ディスカッションすることに自信がある
	プレゼンテーション	プレゼンテーションすることに自信がある
	友人コミュニケーション	友人との良好なコミュニケーションに自信がある

志向性は、「1：全くなりたくない」から「7：非常になりたい」の7段階で回答を求めた。経験は、「1：全くしていない」から「7：いつもしている」の7段階で回答を求めた。自信は「1：全く自信がない」から「5：非常に自信がある」の5段階で回答を求めた。これらのコミュニケーション力の10の得点について在籍年数別に平均値を算出した。平均値が高いほど、志向性はそのような人になりたいと思っており、経験はコミュニケーション力を使うような経験していると感じていることを表す。なお、経験に関する項目は、大学での経験についてたずねる設問であるため、入学直後に実施した調査1の質問項目には含めなかった。

表1.1.3.1 10種のコミュニケーション力の平均値(全学生)

	志向性			経験			自信			
	多様性理解	他の理解	真正性	多様性理解	他の理解	真正性	英語コミュニケーション	ディスカッション	プレゼンテーション	友人とのコミュニケーション
1年目春	5.95	6.07	5.60	—	—	—	1.86	2.43	2.23	3.19
1年目秋	5.67	5.80	5.49	5.07	5.28	4.51	2.21	2.70	2.60	3.31
2年目	5.55	5.63	5.39	4.89	5.11	4.56	2.34	2.77	2.67	3.29
3年目	5.56	5.64	5.36	4.94	5.10	4.59	2.29	2.76	2.66	3.28
4年目	5.52	5.52	5.33	4.99	5.11	4.68	2.37	2.92	2.83	3.39
全学年	5.58	5.66	5.40	4.98	5.16	4.58	2.29	2.77	2.68	3.31

※得点の幅は志向性と経験が1～7点。中点は4点。自信は1～5点。中点は3点。

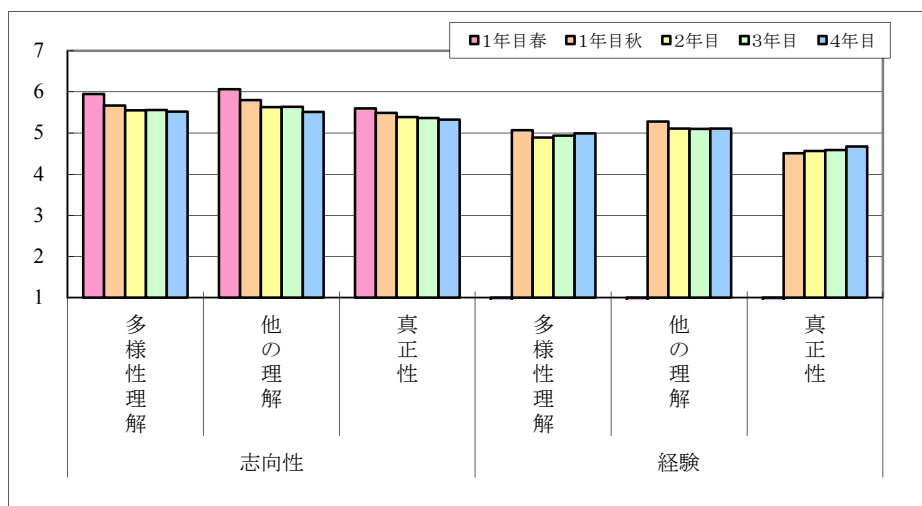


図1.1.3.1 コミュニケーション力 志向性と経験の平均値(全学生)

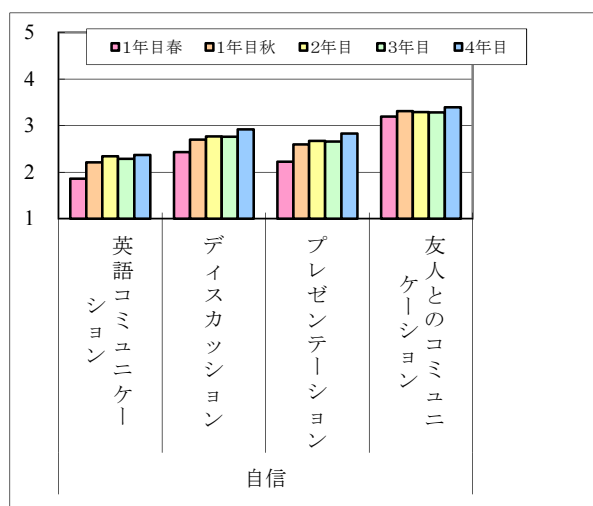


図1.1.3.2 コミュニケーション力 自信の平均値(全学生)

その結果、志向性（「多様性理解」「他の理解」「真正性」）について、どの得点も1年目春の学生の平均値が最も高かったが、1年目の秋には平均値は低下する。1年目の学生は、コミュニケーション力を持った人になりたいという意識が高く、入学を迎えたが、入学後はややその意識が低下するようである。しかし、他の学年に比べると1年目の学生の平均値は高かった。

経験について、「多様性理解」と「他の理解」について、1年目秋の学生の平均値が最も高かった。一方、「真正性」は4年目の学生の平均値が高かった。1年目の学生は、人によっていろんな意見を持っているという多様性を理解する経験や、他者の考えや意見について理解するという経験をしたと感じ、4年目の学生は、他者の考えが正しいかどうか指摘するような経験をしたと感じているようである。

自信について、どの得点も学年間では1年目春の学生の平均値が最も低く、4年目の学生の平均値が高い傾向がみられた。入学直後（1年目春）の学生はコミュニケーションに自信が持てないが、4年目の学生は自信を持っているようである。しかしながら、「英語コミュニケーション」や「ディスカッション」、「プレゼンテーション」に対する自信は、全ての学年で中点の3点（どちらともいえない）を下回っており、英語を用いたコミュニケーションやディスカッション、プレゼンテーションについて全体的に自信が持てていないようである。



(2) 「コミュニケーション力」の習得について

コミュニケーション力の習得に関する2項目について、在籍年数別に平均値を算出した。2項目とも「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

その結果、「コミュニケーション力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」について、すべての学年で平均値が4点（5段階評定の「そう思う」）付近と高く、どの学年もコミュニケーション力を身につけたいと感じているようである。特に1年目春の学生の平均値が高かった。一方、「コミュニケーション力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」について、1年目春に最も平均値が高く、高学年ほど平均値が低かった。高学年ほど大学教育に対する期待はあまり高くないようである。

コミュニケーション力は他の3つの力（感じる力・考える力・生きる力）と比べると、2項目間の平均値の差が大きく、苦勞してでも身につけたいという意識はあるものの、大学教育に対してはあまり期待していないようである。

表1.1.3.2 コミュニケーション力の習得についての平均値(全学生)

	「コミュニケーション力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」	「コミュニケーション力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」
1年目春	4.44	3.97
1年目秋	4.21	3.65
2年目	4.01	3.46
3年目	4.02	3.35
4年目	3.96	3.37
全学年	4.06	3.47

※得点の幅は1～5点。中点は3点。

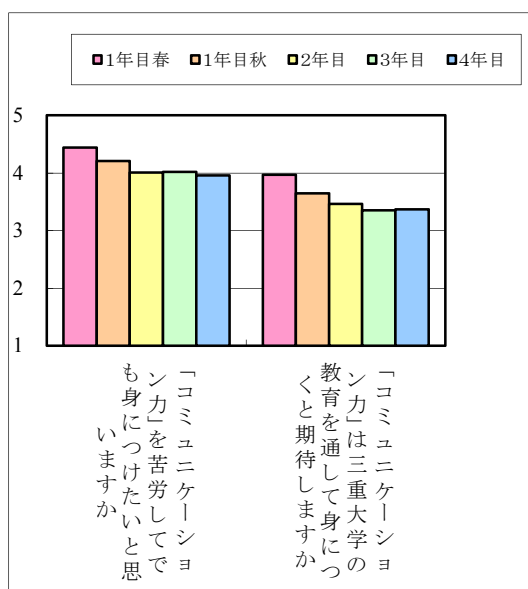


図1.1.3.3 コミュニケーション力の習得についての平均値(全学生)



### 1.1.4 全学生の「生きる力」

「生きる力」の習得について

生きる力の習得に関する2項目について、在籍年数別に平均値を算出した。2項目とも「1：全くそう思わない」から「5：非常にそう思う」の5段階で回答を求めており、平均値が高いほどその項目の内容にあてはまることを表している。

その結果、「生きる力を苦勞してでも身につけたいと思いますか」と「生きる力は三重大の教育を通して身につくと期待しますか」について、両項目とも1年目春の学生の平均値が最も高かった。1年目秋も他の学年と比べると平均値が高いが、1年目春から比べると平均値が大きく低下している。入学半年で苦勞してでも生きる力を身につけたいという意識や大学教育に対する期待が大きく低下しているようである。

表1.1.4.1 生きる力の習得についての平均値(全学生)

	も「生きる力」を身につけたいと苦勞してまで	教「生きる力」を通して身につくか
1年目春	4.35	3.92
1年目秋	4.04	3.58
2年目	3.90	3.43
3年目	3.87	3.38
4年目	3.81	3.33
全学年	3.92	3.44

※得点の幅は1～5点。中点は3点。

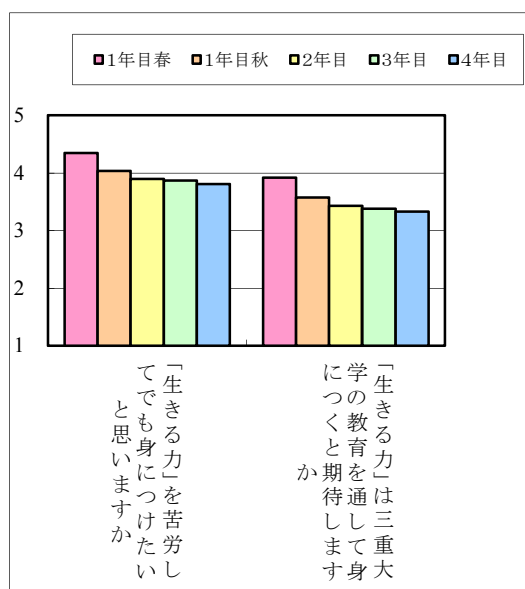


図1.1.4.1 生きる力の習得についての平均値(全学生)